



昭和大学江東豊洲病院だより

2021年1月号

第81号

新年のご挨拶 病院長・笠間 かさま つよし 毅

明けましておめでとうございます。皆様のおかげで今年も無事に新しい年を迎えることができました。

さて当院は昨年1年、さらには現在進行形で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の困難な対応に集中しています。いまだに終息の気配の見えないパンデミックの第3波の中で当院も翻弄され続けています。感染患者さんを受け入れ始めた頃は、その異様な肺炎像と病像の進展の速さに驚かされ効果的な治療薬のない中、試行錯誤の状態でした。しかし昭和大学内でのPCR検査体制の立ち上げと拡充のもと、直接関連する診療科や病棟以外にも、院内の様々な部門などからの応援により次第に病院内の診療体制も確立してきました。病院内を当該患者さん専用のレッドゾーン以外をCOVID-19フリーにするため、入院する患者さん全てにPCR検査や抗原検査を行いました。また今でも大変なご不便やご負担をかけておりますが、ご家族の皆さんにも感染予防のため面会の禁止や制限を設けました。病院内の全職員の皆さんにも感染症にかからないため、さらにその持ち込みの可能性を極力無くするために複数人数での飲食の禁止やマスクや防護具なしでの長時間の会話やミーティングの制限などをお願いしているところです。すべては病院内の入院患者さんや職員の皆さんをCOVID-19感染から防御し、このコロナ禍にあっても救急を含めた地域医療支援病院としての使命を全うすることが当院に課せられた役割と考えています。ご協力いただいている全職員の皆さんに感謝申し上げます。

1918年から1920年にかけて起こったインフルエンザウイルスのパンデミック(スペイン風邪)ではなす術もなかった感染症の制御でしたが、今回は基礎および臨床医学の発展と知見・情報の集約などから原因ウイルスの変異などが詳細に追跡でき対応するワクチンの創造が迅速に進んでいます。本来なら昨年7月には東京オリンピック・パラリンピックが開催されていたところですが、このコロナ禍のため今年に延期されました。ワクチンが期待通りの効果を発揮し有害事象もなく広く行き渡ればオリンピックも安全に開催されるのではないのでしょうか。その時には当院でも競技者や多くの国々の観客の皆さんをサポートすべく、救急医療などを地元医師会など関係各所の皆様と協力して取り組んでいきたいと思っております。

この一年、そして限りなく早い時期に皆様に笑顔が戻り思う存分仕事に、また交友関係や遊びに活躍出来る様な年となりますよう心よりお祈りいたしまして、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



昭和大学江東豊洲病院

第81号のトピックス

- ・ 新年のご挨拶
- ・ めまいについて
- ・ クリスマスツリーを点灯しました
- ・ 病院中庭の果物が実りました
- ・ 「ご意見・ご要望」について
- ・ 編集後記

めまいは大きくわけて中枢性(脳梗塞など脳の問題)と末梢性(三半規管など脳以外の問題)に大きく分けられます。中枢性はめまいのみで起きることはめずらしく、手足の麻痺や感覚の低下、ろれつが回らないなど他の脳神経障害を疑う症状を伴うことがほとんどです。末梢性は聞こえの症状を伴うことはありますが、麻痺などの症状はなく、めまいでどれだけ気持ち悪くても気が遠くなる、普段と比べて会話が成り立たないなど意識の症状を伴うことはありません。実際は末梢性めまいがほとんどで、今回はそのなかでも有名な2つの病気についてお話しします。



良性発作性頭位めまい症

良性発作性頭位めまい症は末梢性めまい症のなかで最も頻度が高く、40～50%と言われており、特に高齢者の女性で頻度が高くなる代表的な疾患です。原因は卵形囊、球形囊と呼ばれる、平衡感覚を司る部位に存在している耳石という極微小な物質が剥がれ落ちて三半規管の中に紛れ込んでしまい、リンパの流れを乱すことによって生じると言われています。

一般的に三半規管の調子が悪いと頭を動かした時にめまい症状が悪くなりやすいですが、この病気は特定の方向を向いた時に数秒遅れめまいがする(これを潜時と言います)、めまいが治った後に続けてめまい症状を起こした方向をすぐに向くと、めまいは起こるが初めに比べて症状が軽くなる(これを減衰と言います)、この二つが大きな特徴で、聞こえの症状を伴いません。持続時間は数秒から長くても数分間で、ほとんどは目の前が回転するめまいですが、症状が軽度の場合は揺れるようなめまいに感じることもあります。

病名に良性とついているように自然と軽快することが多いですが反復しやすいことも特徴で、同じ姿勢で長時間頭を動かさずにパソコンやテレビ、読書などをする人が多い人やけがや病気などで長期間ベッド上で動かない人などに起こりやすいと言われています。

症状を避けるためにめまいが出る向きを避けてしまうことがありますが、その場合は改善するまでに時間がかかることがあります。症状が強い場合は安静が必要ですが、吐き気など伴わなくなってきたら左右に寝返りを反復する運動を行った方が治るまでの期間が短くなると言われていますので、頸椎の病気などで運動の制限がなければぜひ行ってみてください。

メニエール病

メニエール病は内リンパ水腫とよばれ、内耳と呼ばれる聴力と平衡感覚の器官を流れるリンパが浮腫を起こすことが原因と考えられ、めまい症状を繰り返し、症状出現時に聞こえの症状が連動することが特徴的な病気です。

多くの場合は低音部の聴力が悪くなり、軽度の場合は難聴よりも耳が詰まった感じ(耳閉感)や耳鳴として感じます。症状は数十分から数日で治ることが多く、自然と症状が改善することもあり、症状がでていないときは検査で明らかな異常がないことも多いです。症状が起こる頻度は様々で数日単位で繰り返す場合もあれば数年単位のこともあります。

はっきりとした原因は不明ですがストレスにより体内へ水分を蓄えるホルモンの分泌が増加して、そのために内耳の浮腫が悪化することが一つの要因と言われておりストレスが病気に強く影響していると可能性が考えられています。

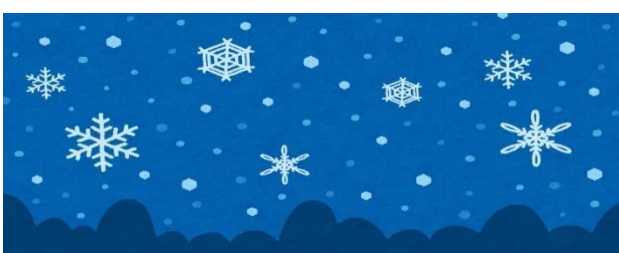
一回の症状は比較的改善しやすいですがはじめに書いたように繰り返すのが特徴で繰り返していると聴力低下が戻らなくなることがあります。

治療は自然軽快しない場合は内耳のむくみを取るような薬を使用します。しかし、ストレスが強い状況のなかでは改善が難しいことも多く、ストレスの回避や休息も重要になってきます。定期的な有酸素運動が効果的とも言われており、ストレスの発散目的や全身的な健康維持のためにも運動されていない人は定期的な有酸素運動習慣を検討してみてください。

クリスマスツリーを点灯しました

令和2年12月1日から25日の間、
1階エスカレーター下にクリスマスツリーを
設置しました。

ライトアップの灯りに照らされ、心温まるクリスマ
スになりました。



病院中庭の果物が実りました

病院中庭に植えられているポンカン、グレープフルーツの木に実がなりました。

ポンカン



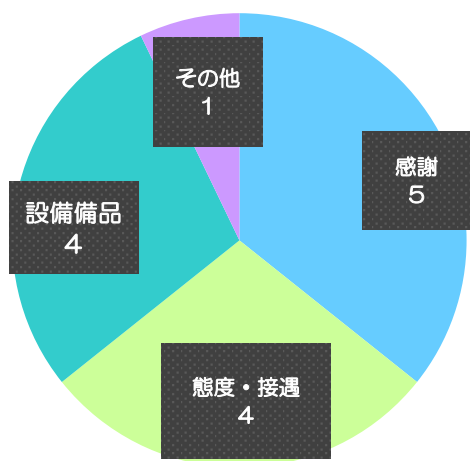
グレープフルーツ



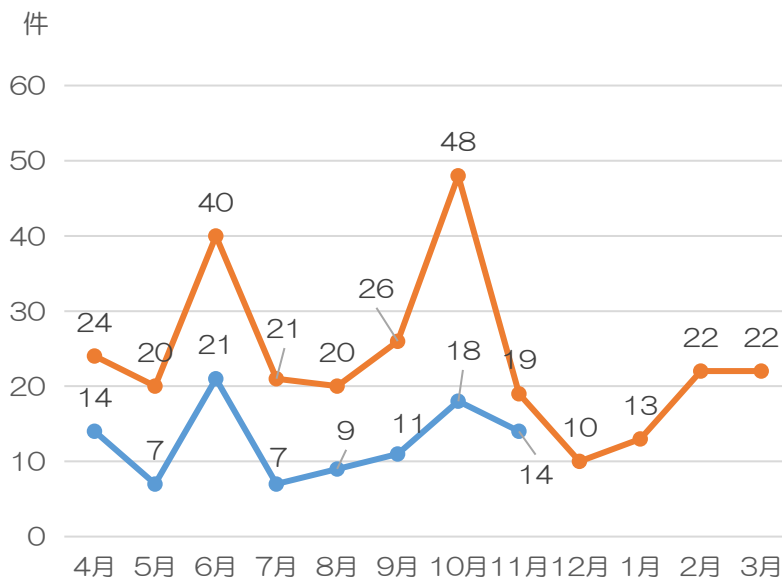
「ご意見・ご要望について」

ご意見・ご要望	回答・改善策等
<p>食事が残念過ぎです。白米がおいしくないのと、汁物がない。おかずはそこそこでしたが、おいしいとは言えない。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。当院は、ニュークックチルシステムという調理システムを採用しており、調理加熱後冷却を行い、食事提供前に再加熱をすることで温かく衛生的に提供可能なシステムとなっております。しかし、炊いたご飯を冷却(チルド状態)にし再加熱することでご飯の食感や味を損ねてしまうデメリットもあります。今後、調理担当者と水分量や手順などを見直し、皆様に喜んでいただける食事提供に努めてまいります。 回答部署：栄養科</p>
感謝	回答
<p>患者の困りごとにくすぐナースさんがかけつけ、親身になって話をしてくださいました。薬についてもいろんな形でもらえたり、時間をずらして対応してもらえたりなど、手厚いサービスに心からお礼します。</p>	<p>お褒めのお言葉をいただきありがとうございます。患者さんに合わせた薬剤調整や対応ができたこと、スタッフ一同嬉しく思います。今後も患者さん一人一人に合わせたよりよいケアが提供できるよう精進してまいります。 回答部署：看護部</p>

令和2年11月分
ご意見・要望の内訳
総件数 14件



令和2年度ご意見・ご要望の推移



編集後記 産科・岩橋 雅之 (いわし まさゆき)

2021年最初の病院だよりを発行させていただきました。新しい1年の始まりにふさわしい内容をと心がけ、各科・各部署のご協力もあり、なんとか刊行することができました。本稿を書いている2020年は、12月の時点では新型コロナウイルスの影響が再度色濃くなってきた状況であり、2021年も病院を取り巻く環境は厳しいものになることが予想されます。しかしながら、渦中にあっても病院一丸となって、適切な医療を必要とする方々にお届けできる病院であり続けなければなりません。新年を迎えるにあたって、今一度病院職員一同、医療を提供していくものとしての姿勢を考えていく必要があるように思います。発行された本稿を手にする頃には、少しでも状況がよくなっていることを願い、結びとさせていただきます。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院
Facebook ページ

